

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800750		
法人名	有限会社 くらべ		
事業所名	グループホーム みそのむら		
所在地	三重県伊勢市御園町高向481		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 20 日	評価結果市町村提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800750&SCD=320&PCD=24>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 12 月 15 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた立地条件の下、利用者もゆったりとした空間、雰囲気の中で生活をされている。当グループホームも開設7年目を迎え、利用者の重度化、又は看取りを迎える中で、スタッフも日々模索しながら個人に合ったケアに取り組んでいる。QOL向上はもとより、QODに対しても前向きにとらえ、研修等で積極的に学び、現場で実践している。東北の大震災以降、防災対策にも力を入れ、他事業所とも連携し情報交換を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地や総合病院に近い、田園の見たせる静かな集落に位置し、小規模多機能施設と整骨院を併設した施設である。運営方針「地域や家庭との結びつきを重視した運営」のもと、「暖かい心で、共に考え、共に生き、共に幸福に、そして地域への貢献を目指す支援、更に、日々研鑽、日々向上、日々感謝、日々感動」を理念に掲げ、その実践と更なるステップアップを目指し、運営者・全職員一丸となって取り組んでいる。また、事業所内は管理者・職員の連携もよく、会話が飛び交い、利用者の穏やかな表情の覗える明るい雰囲気である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの後、地域密着型サービスの意義を踏まえた運営理念を職員一同で唱和し、その日一日の仕事への意識を高めてから、実践につなげている。	日々の申し送りや職員会議等で理念を振り返ると共に、具体的な月間目標と標語を決め、その実践を通して日常のケアや運営に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度の大きな行事「夕涼み会」の実施には地域の方々にも参加協力を頂いている。そして月行事の際にも可能な限り地域の園児達を招待し、利用者と一緒にレクを楽しんだりしている。	地区の公民館行事や高齢者の集いに誘われたり、清掃活動への参加をしている。また、事業所主催の行事に町内や近隣の人々に参加してもらったり、更には保育園児との相互訪問等があり、地域に根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的で開催されている運営推進会議の場では、自治体の役員の参加もあり、地域の理解も少しずつ深まってきているが支援方法等を生かせる機会がもっと必要と思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っておりサービスの現実、今後の取り組みを報告、話し合い、アンケート調査等の結果を基にサービス向上に活かしている。	隔月に開催されている。会議は市介護保険課職員、介護相談員、ホームドクター、区長、自治会長、老人会長、利用者家族を主メンバーとし、運営者、ホーム長、職員代表が参加して、現況報告、特定課題並びに運営上の意見交換等行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、施設の実情やサービスへの取り組み等を伝え、積極的に協力関係を築くように努めている。	介護相談員の毎月定期的な来訪がある。市の担当職員とは、各種申請手続き時や講習会等に随時情報交換している。また、職員が認知症サポーター養成講座の講師として協働している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月例勉強会において、職員全員が「高齢者虐待防止関連法」について学んでいる為、内容は理解している。施錠に関しても身体拘束に及ばない様、注意し心掛けている。	高齢者虐待防止関連法を含め、勉強会や月例会議で全職員は理解を深めている。また、玄関は無施錠で庭へは自由に入出りできるが、門扉は日中も電子ロックで施錠されている。	日中の門扉の施錠は隔離とも受け止められるので、開放可否についての検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に「高齢者虐待防止関連法」について学んでおり、虐待が見過ごされる事の無いよう注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員も成年後見制度については学び、実際に制度を活用されている利用者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は勿論、改定の際も利用者の家族の不安、疑問にも耳を傾け、それに対して十分な説明を行い、理解と納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議も家族等の意見を寄せられる1つの機会でもあるが、弊施設のホームページも持っている為、様々な角度から要望にも応えられるよう運営に反映させている。	玄関に意見箱の設置と外部機関の相談窓口ポスターを掲示している。また、家族の運営推進会議への参加要請やアンケートを実施し、意見を出せる機会にしている。また、家族等来所時に職員が受けた意見要望等も管理者が取り纏め運営へ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の「勉強会」「ホーム長会議」「主任会議」において職員の声と共に意見、提案を聞き、運営に反映させている。	運営者は職員が自由にもの言える雰囲気作りを大切にしている。管理者は日常の会話や申し送り及び毎月の勉強会や会議で職員の意見や提案を受けとめると共に、本社主催の主任会議やホーム長会議等を通して、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場において利用者の高齢化と重度化に対し、スタッフ不足も伴って、結果、やむ得ずの労働時間の延長となっているのが現状である為、職場環境としては全体的に対策と見直しが必要。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修も受ける機会は多く、働きながらのトレーニングに関しても自社でヘルパー2級取得の口座を設け、従業員には優先、優遇措置を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内に限らず他府県における研修への職員の参加を促している。他ホームの実習生の受け入れ又、逆のケースも実施しており、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	隣接の整骨院同行通院や定期的な友人との外出、または不安を訴えられる利用者には傾聴姿勢で納得するまで話を聞く等要望に応えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に利用者の身体状況と施設側の意見を伝え家族の要望や本人の意思を取り入れ支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護や訪問歯科医または医師往診等、医療サービスを初めボランティアによる音楽演奏や踊りの講師を招き他のサービスも提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に買い物や洗濯物を手伝って頂いたり食事の味見や食後の食器の片付けと一緒にやり共同生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会した際には、その利用者とは有意義な時間が過ごせる様環境作りに努めている。そして家族の言葉を傾聴し施設側の意見を伝え、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事でその利用者の要望で馴染みの場所に行っている。現地でその利用者の後輩にあたる方や友人と交流し、今までの関係が途切れない様支援に努めている。	家族や友人・知人の面会も多く、時には墓参り、外食、買い物、カラオケ等出掛けている。また、職員も一人ひとりの馴染みの場所等本人や家族に聞き、ドライブしたり、外食、買い物等に同行したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲の良し悪しがあるので席の場所等に配慮している。そしてレクリエーションで職員が仲介に入り、関わり合ってコミュニケーションを取ってもらえる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一部ではあるが、退所した利用者との交流を図っている。定期的に仲の良かった利用者同伴で会いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己主張出来る利用者は友人と外出したり、整骨院通院等希望を聞いて実施している。困難な利用者には職員間や家族と相談し生活の質の向上に努めている。	日々の暮らしや行動からアセスメント記録を見直し希望や意向の把握に努めている。また、困難な場合は家族等からの聴取や、些細な表情や行動から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの職業や家族環境等生活歴を把握しサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握して、心身状態や介助の仕方等、頻繁に職員間で意思疎通を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員により、その人らしい生活を送れる様に介護計画を作成している。定期的なモニタリングで変更点や改善点を導き出し実施している。	日々の介護経過を基に毎月のケア会議での見直し、3ヶ月毎にモニタリング担当職員が把握した計画の実施状況の検討および評価を経て、長くて6か月ごとに計画書を作成している。	計画の見直し、更新に当たっても事前に本人、家族等の要望や意向を確認した上、同意を得る体制作りを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の会議を定期的に行っておりケアへの気づきや工夫の情報を共有している。そして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身状態の変化に配慮し、家族の言葉を傾聴してその時の状況に対応した支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る事を最重要視し、地域の行事に参加したり近くのスーパーやコンビニへ買い物へ行く事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度在宅訪問診療を実施している。必要に応じて他の専門医を紹介して頂き往診を依頼している。	事業所の協力医(2週毎往診)の他、個々のかかりつけ医での医療が受けられる。通院や受診は、家族と連絡をとり対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護の巡回があり定期的に情報を提供している。特変があった場合は速やかに報告し疑問に思う事は常に相談出来る環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に見舞いに行ったり入院先の看護師に話を聞いたり、病院関係者に相談したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療関係者や家族、施設等で話し合いの場を設けたり研修に参加し支援している。ホームの看取り体制も構築しつつある。	看取り指針があり、契約時から本人・家族と終末期のあり方、重度化した場合の要望や事業所でできること、できないことを話し合っている。また、職員は協力医を講師に、「看取り介護」に関する研修会への参加や月例勉強会でも理解を深め対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救急救命講習を受講し、緊急対応が出来るように取り組んでいる。救急対応のマニュアルを作成し勉強会等で実技訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回地震、津波、火災の場面を想定し避難訓練を実施している。今後は地域との協力体制を築き避難場所として希望者を受け入れる事を検討している。	今年は3月、6月、9月、10月に火災地震等防災訓練(通報、招集、避難誘導、夜間想定等)を計画し、利用者を含め実施してきている。特に大震災に備え地域同業者でネットワークを形成し、避難場所の確保等協働している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重し接している。本人の思いに、傾聴している。	職員は、勉強会やマニュアルで繰り返し理解を深めており、一人ひとりの誇りや自尊心を損ねないように努めている。また、個人記録等書類は収納場所を定めて、取扱いには気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや入浴介助等の和やかな雰囲気の中、希望、自己決定を聞き出せる様な談話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分考慮しながら一人ひとりのペースにあわせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に、衣類を選んでいただいている。美容師が隔月で来園し利用者の希望に沿って散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時に利用者から希望を聞いたりしている。料理法、味付け等のアドバイスを受たり、また味見もして頂いている。片付けは率先してされている。	食堂ではキッチンでの調理の人の動き、音、匂いが漂い、また、器や盛り付けも工夫され、楽しみを醸し出している。食事中は職員も同じテーブルを囲み、介助、見守りでの話し掛けや会話で和やかな雰囲気である。また、飲み物もお茶、コーヒー、牛乳、生姜湯等から選べる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時のお茶の時間では、一人ひとりから希望を聞き対応している。食事摂取(量)水分摂取(量)を毎日記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事、口腔ケアそれぞれの残存能力に応じ実地している。歯科衛生士にも相談を行っている。義歯は毎日ポリドントにて消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムのパターンを把握・声掛けし、トイレで排泄出来る様誘導を行っている。	一人ひとりの24時間排泄記録と本人の訴えや表情から理解に努め、合わせて羞恥心を損なわないよう配慮した誘導により、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解した上で排泄チェック表を利用し、便秘に良い食品を料理に取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴提供をしている。ゆったりとした環境で個々の生活パターンを考慮し、希望に合った入浴をして頂く。入浴剤や季節入浴(柚子湯・菖蒲湯)も提供している。	毎日、午後2時半頃～4時半頃に入浴できる態勢にあり、1日おき週3回の入浴を支援している。また、シャワー浴や足浴でも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度・照明の調節を行い、布団やシーツ類の清潔を保っている。個人に応じて、休息して頂ける様誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効能書に目を通しカルテにファイリングしている。主治医、看護師に確認し、症状の変化がある場合は報告し、見直し等も行って提供している。服薬管理も慎重に行い日付等を記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の出来る事を自主性も尊重し、役割り分担を見極め対応している。外出を定期的に行い、嗜好品・楽しみ事を話の中から汲み出し提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物や行事等で個々の行きたい所など聴きだし外出支援をしている。友人や家族の呼びかけ、外出を支援している。	日々声かけをして、構内での庭いじりや外気浴、更に一人ひとりの意向を確認し、喫茶店や買い物、外食等に同行している。また、地域行事(公民館、保育園等)に参加したり、年間計画を立て花見等、行楽に出掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で管理しているが、本人・家人の希望によって自己管理されている方もみえる。買い物に出掛けられた時は本人より支払って頂くようにする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望により携帯電話を使用されている方もいる。希望があれば何時でも連絡出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる様、一年を通じて共同空間の温度調節に配慮し、居室の壁面には手作りの装飾品やお好きな写真等を貼り、心地よく過ごせる工夫をしている。	壁に写真、手製のカレンダーや貼り絵等で飾りつけられた広い廊下や食堂フロアは適度の明るさで、ソファやテーブル等が整理整頓されて置かれており、清潔感のある落ち着いた佇まいである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の生活リズムを尊重し共有の空間の中でも独りになれたり、又、気の合った利用者同士が過ごせるようソファや椅子の位置に配慮している。又、和室も活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物・好きな物を居室に置いたり、本人が心地よく落ち着いて過ごせうような工夫をしている。	クローゼット、ベットは備え付けられている。使い慣れた日用品や写真、縫いぐるみ、飾り花、更にテレビ等配置よく置かれ、壁にはカレンダーや絵などを貼り、居心地良さを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に張り紙をし、各居室の入口には同意のもと写真・名札等でわかりやすくしてある。		